

# 農村開発・女性自立

## ビラーン民族の村ルールにおける収入向上の取り組み

### 小規模アグロフォレストリー事業

2008年、2014年に続き、ボルルール村での土壌流出防止と収入向上のためのアグロフォレストリー事業が始まりました。予算の関係で、実施面積は、毎回、5ヘクタール程度と小規模ですが、年々、ココヤシやゴム苗木の植栽面積が増えていて、地滑り防止、干ばつ時にもココヤシで生き延びたなどの成果が少しずつ出ています。

村役場も関心を示していて、私たちのモニター時の受益者集会のために、バランガイ・ホールが提供され、村長（写真中央・右端は農業指導者ボニファシオ）も挨拶に立って、受益者を励ましました。



### ボルール・ハンディクラフト事業

7月初め、PFPのヴィヴィアンさんから、ボルール・ハンディクラフト・チーム6名のリストと計画書が届きました。COWHED見学、組織運営やビーズ細工の基礎知識研修など、COWHED元マネージャー・ジェマさんの協力にも言及していて、とんとん拍子の進展にむしろ心配になりました。COWHEDの次はビラーンの女性支援という計画はあったものの、年度予算に計上しなかった活動です。とりあえず、アグロフォレストリーからなる農村開発事業の一部に位置付けることにしました。

チーム・リーダーは、農村開発事業の会計補佐・ミエルナです。最初は簡単なビーズ細工から始めて、将来的には、足踏みミシンを購入して、アムグオ地区で継承されているビラーン民族の織物・ナバルタビ(下記)をブックカバーや小物入れ等に縫製する予定です。

価格低迷で不振のバーベキュー竹串作り(100本一束2円)に代わる母親たちの現金収入源になるように、時間をかけて支えたいと思います。



アムグオ村の3名ほどが継承しているビラーンの伝統織ナバルタビは、地元で縫製技術者が育成されていないため、私たちは織のまま購入し、タペストリー用として、また、縫製ボランティアにより、バッグなどの製品にして、織りの紹介・販売をしています。(写真は6月訪問時入手のナバルタビ織2種と担当のスヌーリア)

## 自立度 90%を実感！

### レイクセブ町の助成により、9日間の縫製研修を実施中のCOWHEDを訪問



隣のスララ町から招かれたという若い縫製指導者と組合員提案のデザインによる各種バッグなど、コロナダル市制50年イベント・ティナラクフェスティバル(7/10-18)出展を控えて、ミシン数台をフル稼働させて、組合員20名が交代で縫製作業に汗を流していました。



民族衣装のマロンとティナラク織を組み合わせたバッグを手にするフロリタさん。15年前に当団体が支援した縫製研修を受講した5人のうちの1人で、今は熟練縫製技術者です。今回私たちがサンプルとして渡したバックパックについても、「次回までに作っておきます」と自信をもって答えてくれました。

## イベント写真報告

7/3 日比NGOフォーラム(会場:JICA地球ひろば)  
『権利』を奪われたフィリピンの子どもの現状について、

約100名の青年たちが、3名のゲストの話に耳を傾け、質問をし、分科会に分かれて議論を深めました。

昼食時や休憩時には私たちのブースに来て、ミンダナオの活動、子どもたちの教育について、大いに関心を示してくれました。



5/14・15 あーすフェスタかながわ2016

事務局から遠く、テント無しで、申し込みを躊躇する会場ですが、カードケースなどのリピーターも年々増え、終わっての感想はいつも「参加してよかった！」です。

